

Our Story Begins April 20, 2017

GINZA SIX *magazine*



52 interviews for GINZA SIX

世界のGINZAをつくる

G S I X

Q1:GINZA SIXの「メゾンデコルテ」[BIF]は、化粧品ブランド「コスメデコルテ」のアートディレクターとして商品のパッケージやブランドの世界観をデザインしてきたマルセルさんが、空間デザインまで手がけた初の店です。いちばんの見どころは？

A:ブランドらしさがもっとも表れているのは、壁一面に施された立体的なデザインです。「コスメデコルテ」は肌の健康を第一に考え、女性らしい美しさをつくり出すことに熱心なブランド。壁面は自然界の四季を通して生まれ変わり続ける肌を、視覚的に表現しています。

Q2:今回の店では商品だけでなく、ブランド初のトリートメントキャビンが3部屋、併設されます。デザインのコンセプトは？

A:自然界が身体や肌に及ぼす影響は明らかです。たとえば花が咲くように肌が目覚めると、身体まで重力に逆らうように活性化さ

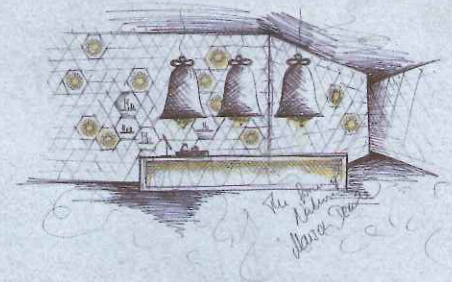
れる。緑豊かな森では強い日差しは拡散され、肌は太陽の温もりを感じながらも紫外線の悪影響を受けません。結晶がゆっくりと成長する環境では、肌は永久的に浄化され続けます。3つのキャビンではそんな自然と一体になれるようなデザインを目指しました。

Q3:常日頃からデザインを通して伝えたいと思っていることは？

A:デザインに人間的な温もりを取り戻したい、人を元気にするデザインにしたいという想いがあります。そのことで受け手との間に価値ある絆を創造したいと思っています。

Q4:GINZA SIXに期待することは？

A:高感度なショッピング体験を目指してデザインを積極的に取り入れようとしている他の商業施設に、インスピレーションを与える存在になることを望みます。同時に地域全体にもクリエイティブなエネルギーを与える、銀座の資産になってほしいですね。



リボンを載せたベルが愛らしい照明「Bell Lamp」と、壁のデザインが印象的な店内のスケッチ。

PROFILE

プロダクト&インテリアデザイナー。1963年オランダ生まれ。2010年より「コスメデコルテ」のアートディレクター。数々のブランドのために商品、建築、インテリアを手がけ、日本では大分県立美術館にインスタレーション作品が所蔵。空間を手がけたMondrian Doha Hotelが開業間近。

ストアデザインには世界を股にかけるクリエイターが参画。

Q & Aとスケッチでひもとく、そのアイデアの源

NEW MATERIAL RESEARCH LABORATORY (HIROSHI SUGIMOTO)

新素材研究所 (杉本博司)

Q1:写真家であり、現代美術作家である杉本さんが、建築家としての仕事に関心をもった原体験や経緯とは？

A:芸術とは世界を総合することである。

Q2:建築設計事務所「新素材研究所」は「古様な素材を提案することが新しい」という設計理念のもとで多くの建築空間を手がけ、GINZA SIXでは会員制のラウンジ「ラウンジシックス」[5F]のインテリアデザインを担当されています。今回使用した古い素材の中で、VIPの方々に特に着眼してほしいポイントやディテールは？

A:空間は均一な質に満たされている。着眼せず、離眼せよ。

Q3:古様な素材が集積した建築空間が、私たち人間に語りかけてくることは？

A:神は細部に宿る(もし潤沢な資金が与えられるなら)。

Q4:杉本さんが考えるラグジュアリーな空

間とは？

A:ラグジュアリーなものがいっさいない空間が、いちばんラグジュアリーである。人類は華美症に感染してしまった。

Q5:「ラウンジシックス」が長い時間を経たあと、空間としてどんな風景や場になることを理想とされますか？

A:パルテノン神殿のような古びた味。

Q6:「ラウンジシックス」には杉本さんの写真作品も設置されますね。

A:空間の間を支配するために、作品が必要とされた。

Q7:GINZA SIXの未来の姿をどう想像しますか？

A:この世に未来があること自体が不透明。

※GINZA SIXのサイト(<http://ginza6.tokyo>)では、杉本さんの特別寄稿による文章「銀座遠望」も掲載。



ラウンジに置かれる杉本さんの写真作品をベースにした特注ソファのスケッチ(新素材研究所提供)。

PROFILE

現代美術作家。1948年生まれ。'74年からNY在住。その写真作品は世界各国の美術館に所蔵され、国内外の個展および受賞(章)歴も多数。2008年に建築家・榎田倫之氏と「新素材研究所」を設立。'17年10月に自身設立の財団による文化施設「江之浦測候所」(小田原)が待望のオープン。